

# 茨城県作業療法士会 新型コロナウイルス感染症に関する 状況調査 結果

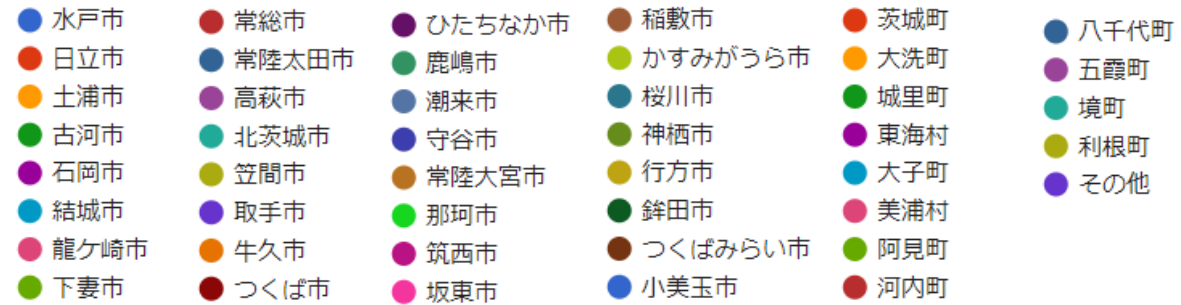
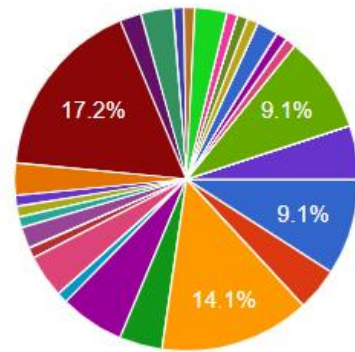
調査期間：2020/6/5－2020/7/5

回答者数：99

# 回答者属性

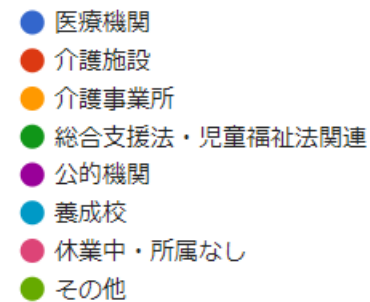
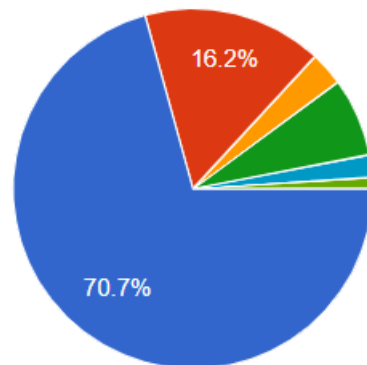
## 所属施設のある市町村

99 件の回答



## 所属施設種類

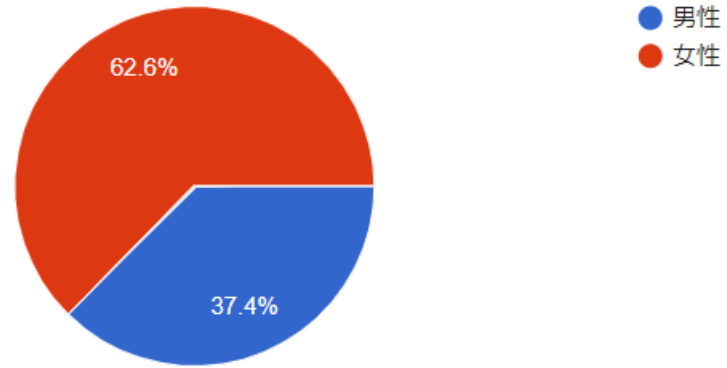
99 件の回答



# 回答者属性

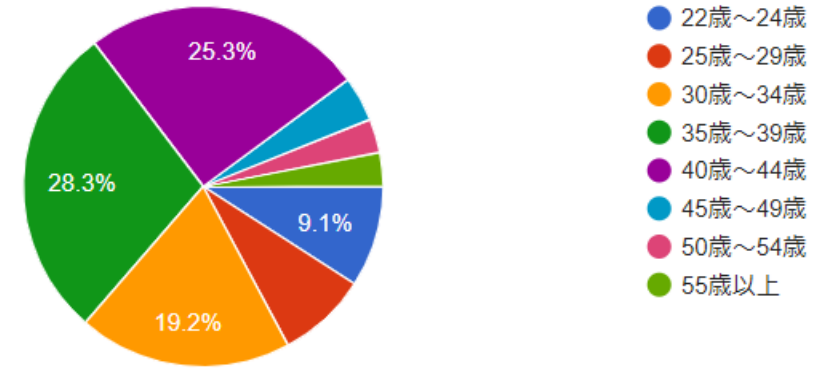
## 性別

99 件の回答



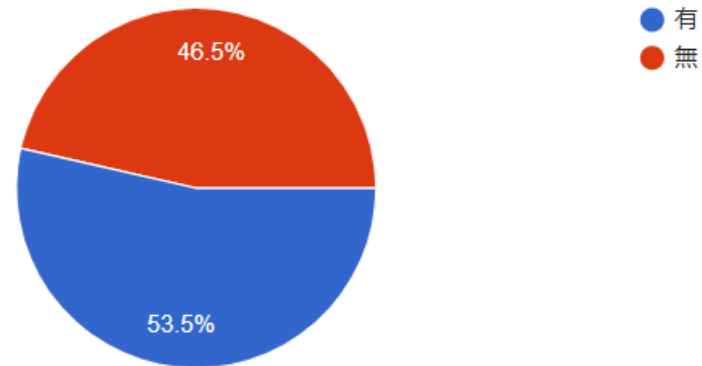
## 年齢

99 件の回答



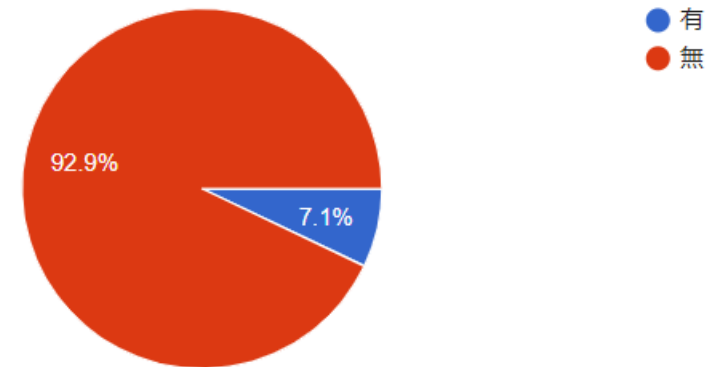
## 中学生以下の被扶養者の有無

99 件の回答



## 要介護者と同居の有無

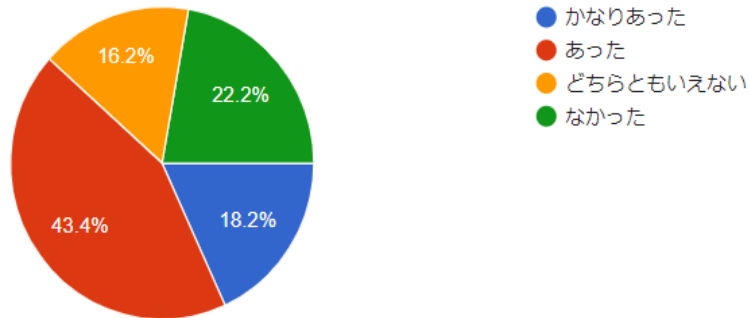
99 件の回答



# 家庭環境について

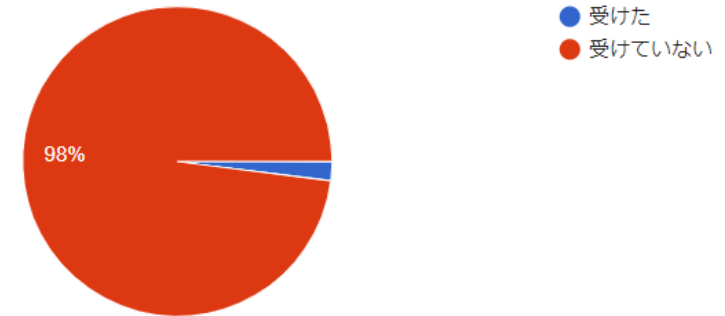
新型コロナウイルスの件で、「家庭環境」に影響がありましたか

99 件の回答



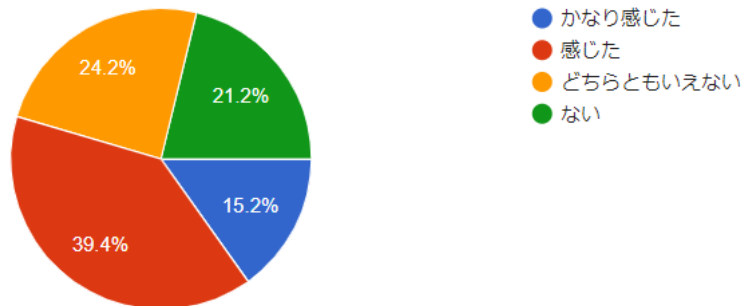
自分または家族に対し、心無い対応、不当な扱いを受けましたか

99 件の回答



新型コロナウイルスの件で、「家庭環境」に対してストレスを感じましたか

99 件の回答



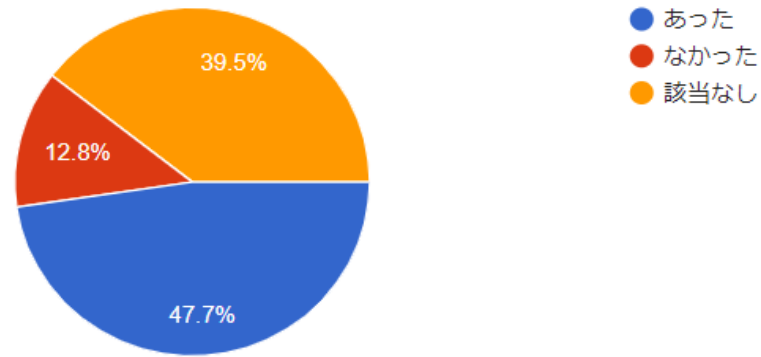
上記質問で「受けた」と答えた方は、具体的事例を教えてください（自由回答）

- ・お店に入る時に店員に睨まれた。
- ・子供の通う園からの登園拒否

# 家庭環境について

お子様の休校・休園はありましたか

86 件の回答



上記質問で「あった」と答えた方は、学校・園の所在する市町村名を選択して下さい

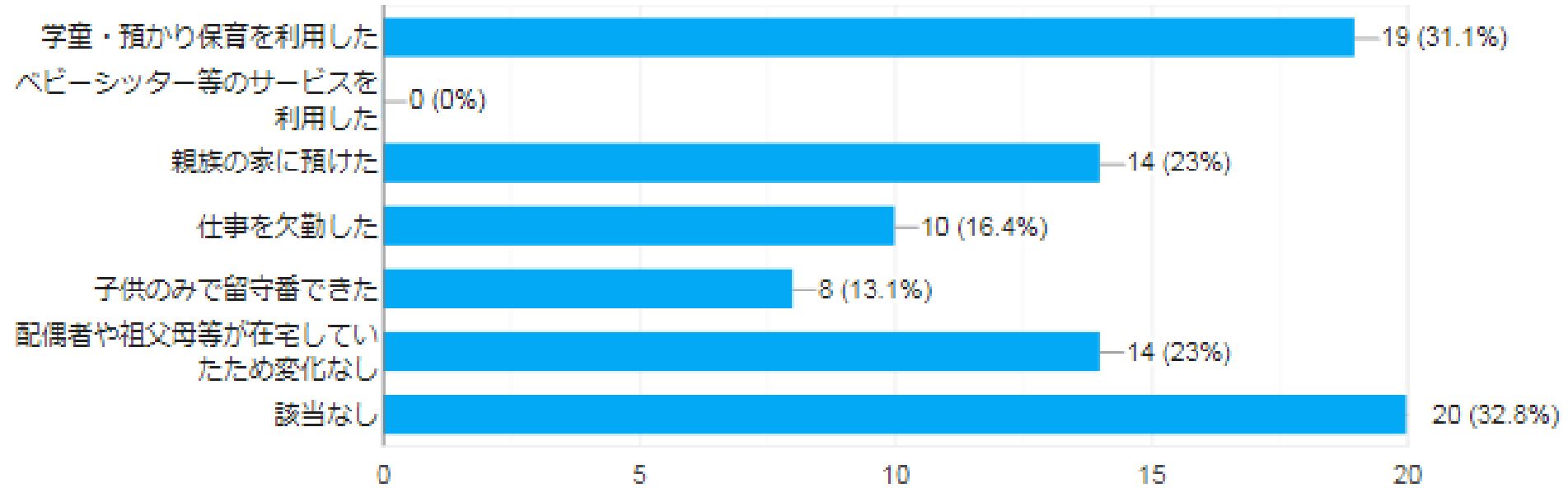
39 件の回答



# 家庭環境について

休校・休園中のお子様への対応方法はどうされましたか（複数選択可）

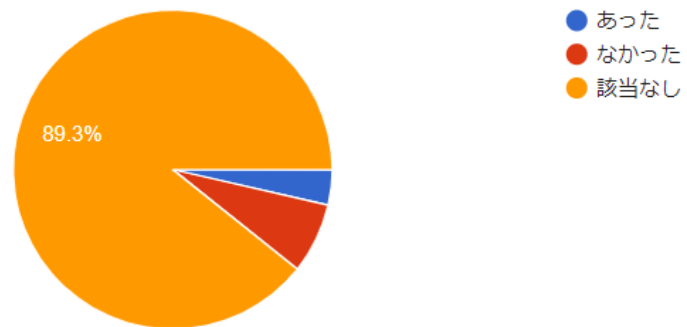
61件の回答



# 家庭環境について

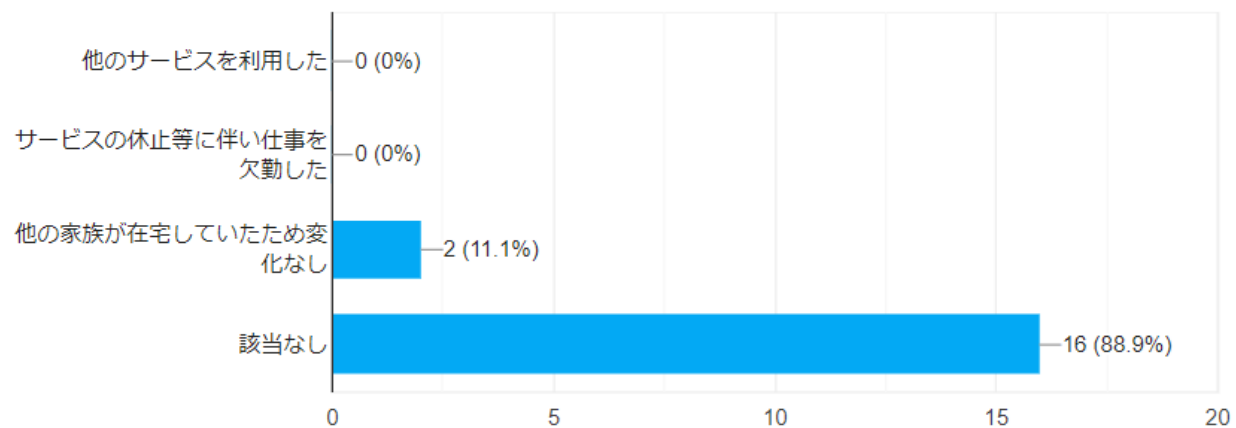
要介護者の利用するサービスの休止等がありましたか

56 件の回答



上記質問で「あった」と回答された方は、サービス休止中の対応はどうされましたか（複数回答可）

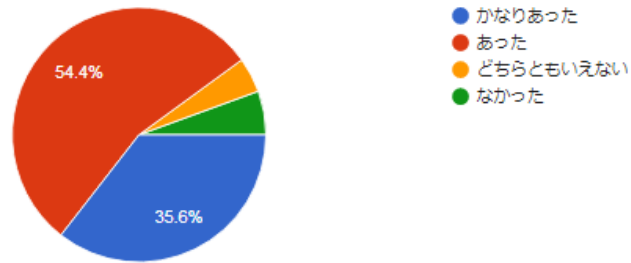
18 件の回答



# 仕事・職場について

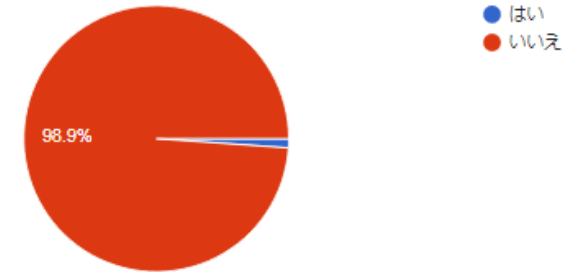
新型コロナウイルスの件で、「仕事」に影響がありましたか

90件の回答



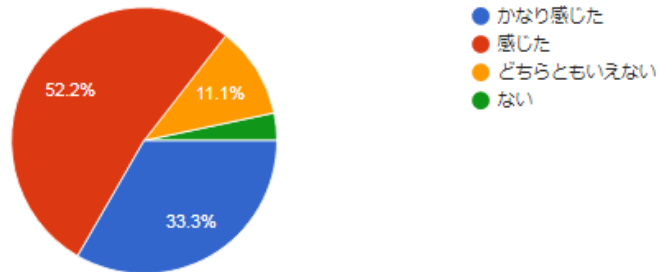
新型コロナウイルス陽性患者と濃厚接触しましたか

90件の回答



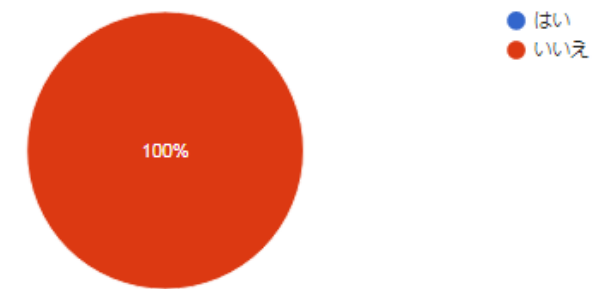
新型コロナウイルスの件で、「仕事」に対してストレスを感じましたか

90件の回答



濃厚接触者となりPCR検査を受けましたか

90件の回答

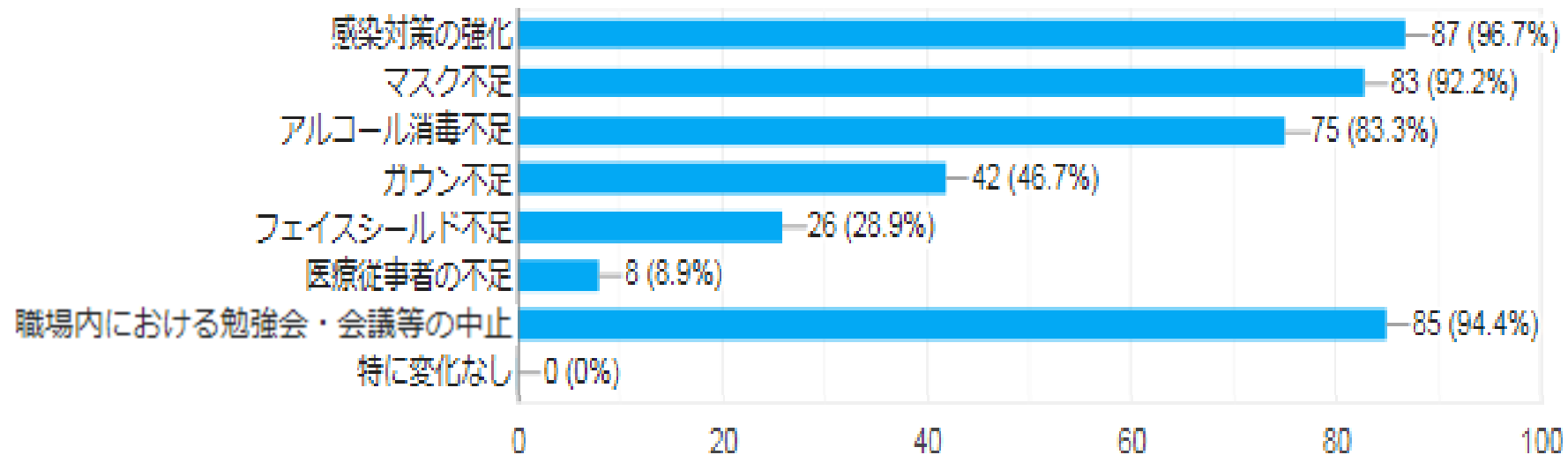




# 仕事・職場について

新型コロナウイルス感染症拡大前後であなたを取り巻く職場環境に変化はありましたか（複数選択可）

90件の回答



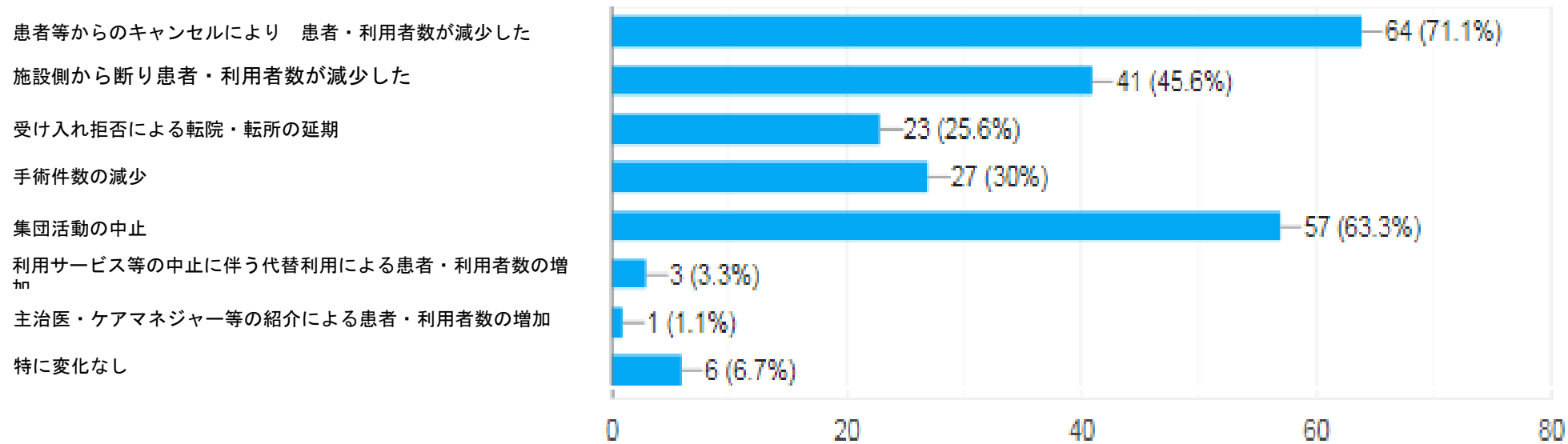
## 【その他意見】

- ・院内会議をzoomで実施
- ・県外への外出は届出をする
- ・慣れない仕事への従事
- ・臨時感染委員会の開催
- ・スタッフルーム内の環境調整
- ・食事中の私語厳禁

# 仕事・職場について

患者・利用者の利用状況に変化はありましたか（複数選択可）

90件の回答



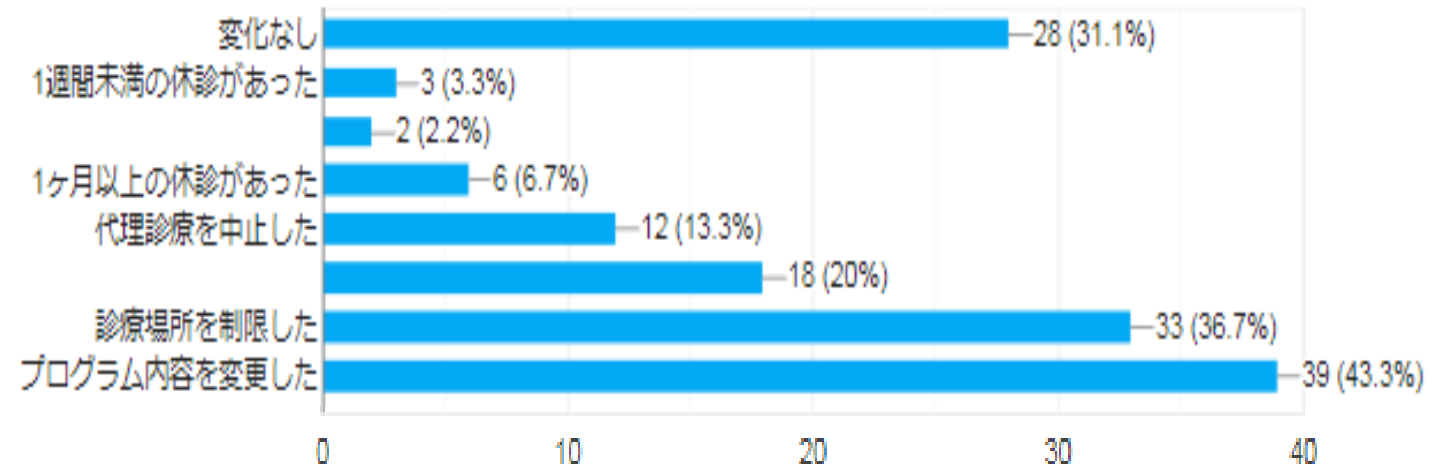
## 【その他意見】

- ・ 他院での受け入れ拒否により、受け入れを行った
- ・ 利用者自身が面会や外に出れないことにストレスを感じ、不安や不満等が増えた

# 仕事・職場について

作業療法提供状況に変化はありましたか（複数回答可）

90件の回答



## 【その他意見】

- ・ボランティアの受け入れ中止
- ・外来診療のみの担当のセラピストや各病棟に出入りするセラピストを固定した
- ・外来診療を休止した

# 仕事・職場について

感染対策において、工夫した点、取り組みを行ったことなどがあれば教えてください。（自由回答）

- ・ 訓練室の常時換気、レイアウト変更、対面シールドの作成、使用エリアを限定しゾーニングを実施。
- ・ 手洗い、手指消毒の徹底、フェイスシールド着用した上での訓練実施。
- ・ 患者に対するセラピストの立ち位置の考慮。
- ・ 三密考慮、物品消毒の徹底。
- ・ 入院外来の担当を限定、入院担当内では各病棟ごとに担当者を限定。
- ・ 外来作業療法を休診し、入院患者との接触を回避。
- ・ 外部からの来訪者の体調管理の問診を実施。
- ・ スタッフの昼休みを分ける、黙食する。
- ・ ミーティングや会議を減らした。zoom会議を実施。
- ・ コロナ対策を目的に休む利用者に対して、自主トレメニューを渡し廃用予防へ取り組んだ。
- ・ 学習会を実施し、正しい知識に基づいて患者とともに感染対策に取り組むこと、誰もが主体的に感染対策を行うことを目指した。
- ・ 作業療法場面において不足マスクの作成の機会を作るとともに、職員に材料の寄付や作成ボランティアを募った。
- ・ 介入前に患者さんにも手洗いを実施してもらった。
- ・ 精神科では集団活動がメインになるため、物品管理の方法や環境設定を実施。入院とデイケア・外来の接触を減らす工夫をした。

# 仕事・職場について

今回の新型コロナウイルスの流行において、困難と感じた事、今後の課題や良かったこと等がありましたら教えてください。(自由回答) (1/2)

集団プログラムについて、例えば共同での作品づくりは今後も難しい。

コロナウイルス流行第二波を念頭に業務改善していくことが課題。施設の面会、外出、外泊が当面中止になっているので、利用者へのフォローや代替策の試行ができたのはよかった。ただし、それでも3密回避できない業務があるのも事実であって、職員間でも困惑している現場を統括、統制する人材、組織の大切さも実感しました。

感染予防を徹底したことで、院内感染を防ぐことができた。

訪問リハビリにおける自事業所の医師の診察が困難

自宅待機やスタッフルーム待機となるスタッフが増えていく中で、残りの限られたスタッフしか臨床に出られなくなり、さらに担当病棟によってリハ対象患者数にも差があり、業務負担を分配することが困難であった。一方で、臨床に出られない時間を使って、先送りになっていた事務的作業に取り組むこともできた。

手を触る仕事なので濃厚接触になる可能性が高い。1単位にした方がよいのか2単位行っているのか(時間が短ければ短いほど濃厚接触にならないので)、特に日本OT協会からや県士会から作業療法士の仕事の仕方についてのアドバイスや指導はなかったため迷いながら行っている。

病棟専従制の必要性和それを実施するための人員確保

通常は院内と同スペースで外来作業療法を展開。  
そのため感染予防(院内への持ちこみを防ぐ)目的で外来を休診。  
コロナ感染のリスクが軽減したわけではないため外来作業療法の再開の目的が立っていない。

外来専用のリハビリ室や出入口がないため、入院患者との区分けが困難であった。

精神科は集団活動や道具を共有するプログラムが多く感染リスクが高い。また、こだわりや理解力低下によりマスク着用その他の感染予防が実施困難な患者が多い。

精神科で出た場合の対応方法など

外来と入院の患者さんのエリアを分けたり従事者を分けるゆとりがない

コミュニケーション不足になった。

デイケア利用者数の制限が必要。訪問リハで対応しています。

感染対応の継続期間、研修会等の対応、給与への影響

収益の増加が難しい。場所人数を制限した上でいかにリハの収益を上げていくか。

収入面

①肺炎で入院した患者がPCR検査をする間、隔離措置をとった。  
普段よりもリハ依頼の時期が遅れた。個室が足りなくなり、食堂や談話室がなくなった。  
②病院全体で面会禁止の措置をとった。  
退院時のカンファレンスやサービス担当者とのやり取りがしにくくなった。  
患者と家族が会えなくなり、患者のストレス増加を感じた。

リハ室に人が密集してしまう事への対応  
入院・外来の混在など。  
対応するべき事が多いが、組織としての対応だと遅すぎるし対応しきれていないと感じた。医療機関ではなく企業の方が対応がしっかりしている気がした。

チャットでの打合せ、動画での研修会

外来患者の感染対策が難しい。例えば37.3℃・自覚症状なしの場合は診療すべきかなど。

リハビリ室は、時間帯によって外来、入院患者が混同する。それに対し、時間帯、場所の工夫が今後必要となる。

利用者は必要と判断し、サービスを受けているはずだが、ご家族の方の希望で長期で休んでいる方が何名かいた。ケアマネさんとの連携がより必要だと感じた。

# 仕事・職場について

今回の新型コロナウイルスの流行において、困難と感じた事、今後の課題や良かったこと等がありましたら教えてください。(自由回答) (2/2)

前の質問の回答内容に挙げたように、スタッフの病棟配置の影響で、各スタッフの仕事量のばらつきが出てしまっていること、また、その中で教育(質の向上)をどのように行っていくかが直近の課題です。さらに、今後、医療従事者として、プライベートを含めて、新しい生活様式をどのように組み立てていくと良いのか、漠然としていますが課題というか、不安があります。

- ・利用者様だけでなく同居するが家族の状況の把握(勤務地など)が必要
- ・会議など必要性の再検討ができたことやWEB会議が行えるようになり移動時間の短縮や時間の有効活用ができた

感染症の怖さ、対策の大変さを学びました。目に見えないものであるだけに自分の意識を持つこと、またそれを維持することが重要と感じました。

一旦中止した業務(集団活動、会議や訪問など)を、どのような段階で再開していくのか、判断に悩む事があります。

ソーシャルディスタンスによって、コミュニケーションが取りにくい環境となり、認知症や難聴の方は活気がない。介護スタッフは感染予防対策によって業務量が増加した為に、そのような状態に対して深く関わる事が難しい状況です。リハビリ側が、感染予防対策をした中で、小集団活動を再開していきたいと考えています。

持ち歩きの手指消毒があること

併設病院で患者を受け入れた際、直接の関わりがなくても利用者・後家族が不安に感じ、その払拭が難しかった。近所の人や、他の介護事業所の不安も強かった。

家にいる保護者のストレス発散のためのウェブ相談ができると良いと感じた。

接触し行う業務が多い中での感染対策の難しさ

地域へ向けた活動が大変行いにくくなった(療育指導、学校訪問等)。会議は短縮し、明確な議事で進行がスムーズになった。

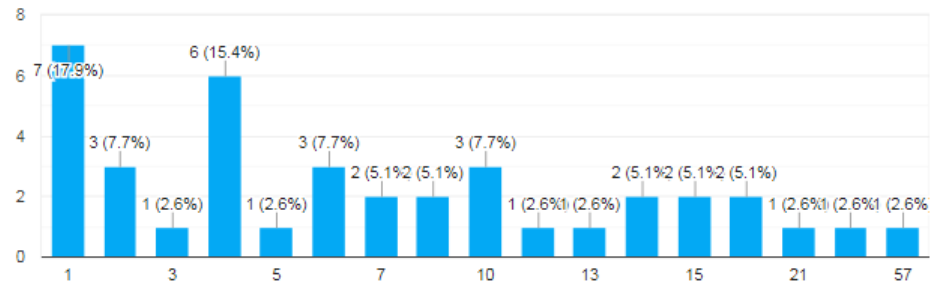
他の感染症が減った

緊急事態宣言発令前から各部門で連携して複数のプランニングを検討する必要があった。

# 作業療法部門について（作業療法部門代表者のみ回答）

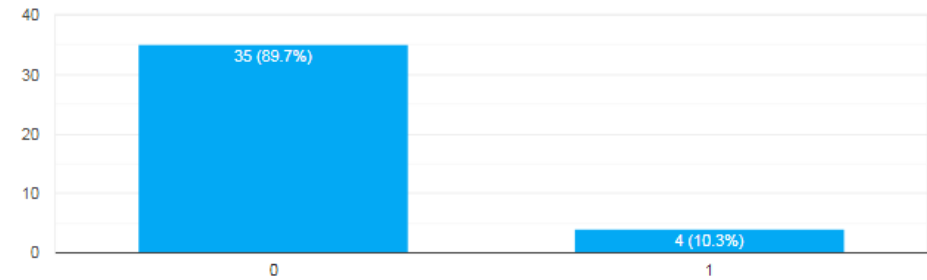
在籍作業療法士数（半角数字のみ記入してください）

39件の回答



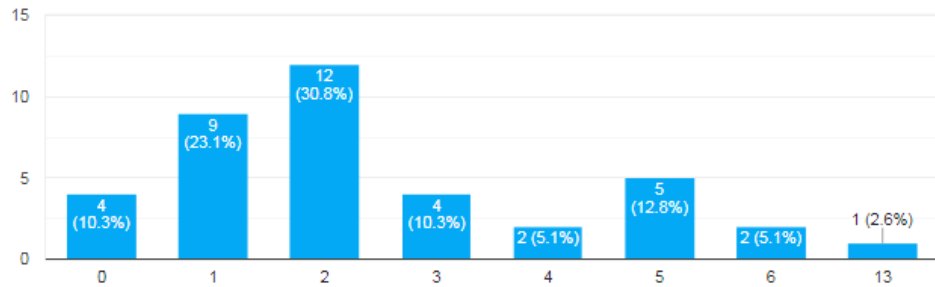
在宅介護中のスタッフ数（半角数字のみ記入してください）

39件の回答



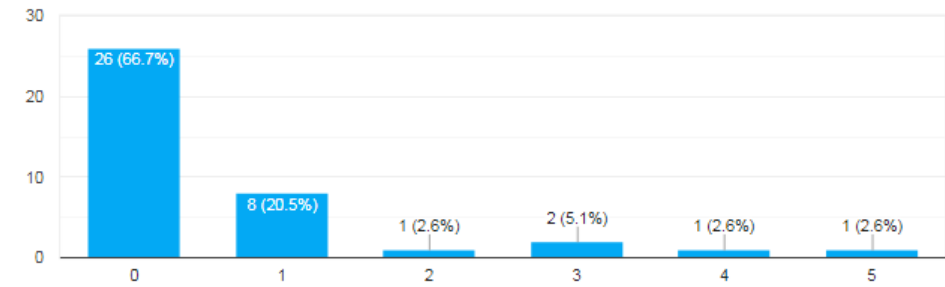
中学生以下の被扶養者を有するスタッフ数（半角数字のみ記入してください）

39件の回答



新型コロナウイルスの影響で欠勤したスタッフ数（半角数字のみ記入してください）

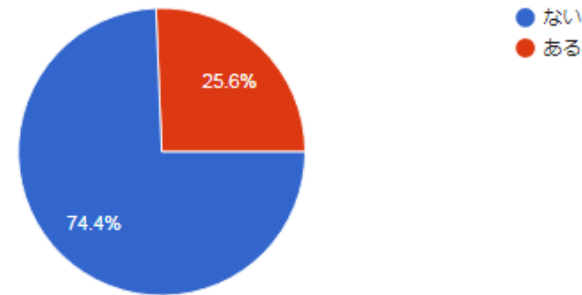
39件の回答



# 作業療法部門について（作業療法部門代表者のみ回答）

施設として、新型コロナウイルス陽性患者に対する作業療法介入の取り決めはありますか

39件の回答



上記質問に対し「ある」と回答した方は、取り決めの内容を教えてください。（自由回答）

- ・ コロナ疑いの段階から介入を見送る
- ・ PCR検査の結果が陰性になったことを確認してから介入する
- ・ PCR検査が2回以上陰性となり、病棟では対応できないリハビリテーション対象者のみ実施
- ・ 厚生省の指針に準ずる
- ・ 陽性患者や疑わしい人は転院対策方向となった。後方支援病院として機能を発揮できるように対策は構築検討していた。
- ・ デイケアにおいて、発熱などの症状がある、対象者家族に症状がある場合は中止。東京方面に外出をした家族がいる場合、部分隔離にて様子観察。
- ・ PCR検査陰性後に感染対策室と主治医の指示の下リハを実施する。